

神奈川県学童保育

「学童保育（放課後児童健全育成事業）の「従うべき基準」を 堅持することを求める請願」取り組みについて

県内の各地域連協の皆様、「従うべき基準を堅持することを求める請願書」の署名活動への取り組み、ありがとうございました。

6月6日現在、18万筆を超える署名が集まり、これは1か月という短期の取り組みとしては非常に大きな数字です。

今回の、一見してわかりづらいテーマであるにもかかわらず、関心の高さはすばらしいものです。

従前より厚生労働省の「社会保障審議会児童部会放課後児童対策に関する専門部会」で審議されていたものを内閣府の「地方分権改革有識者会議提案募集検討専門部会」で取り上げてしまうと、地方分権、規制緩和、と言えども何でも正しいと言うのは考え直すべきです。たしかに古い基準が現実に合わないことが多々あるかもしれません。しかし、学童保育の基準は数年前にようやくできたばかりであり、規制の見直しの対象ではないはずです。

今回、支援員の配置基準が緩和されて喜ぶのは一部の自治体を除けば、実は営利学童保育なのです。

学童保育の経費の大半は人件費であり、これが削減できれば営利企業の参入に弾みがつくと思われます。このように規制緩和の影響ははかりしれません。

今話題の本で「ルポ 保育崩壊」「ルポ 保育格差」（いずれも岩波新書）があります。保育所の規制緩和、量的拡大が保育現場の質の低下を招き、子どもたちに

影響が出ていることの現場からの報告です。保育の世界で起きた事は、次に必ず学童保育の世界でも起きると言われます。今の皆さんのがんばりが、それを防ぐ一助となるであろうと思います。

神奈川県次世代育成課との懇談

去る5月21日(月)に、県連協事務所にて神奈川県で学童保育を所管する次世代育成課との懇談を行いました。今年度より、これまでの県民局から、新設された福祉子どもみらい局に移管され、直接担当されている副主幹以外の顔触れが変わりました。

議会中のため、課長、副課長の参加はありませんでしたが、グループリーダーと副主幹の二人に、1時間半にわたる懇談の中で地域の状況等伝えることが出来ました。

始めに小神会長の挨拶に続いて、県からは、自己紹介と合わせて、認定資格研修や資質向上研修のH29年度の実績等情報提供がありました。

参加地域からは以下のような実情が出され、県からは課題を受け止めるとの発言があり、この日の懇談を終えました。

- ◆ 横浜市…神奈川県は全国で学童保育利用率ワースト1となっている。放課後キッズクラブは2年生になると半分近くがやめてしまう。そのことが、利用率が伸びない大きな理由となっている。
- ◆ 横須賀市…市の財政力の問題で、国の補助金の中に使えないメニューがある。学校施設の利用については、希望しても学校の状態によって利用できない実態がある。
- ◆ 平塚市…処遇改善事業費が変わらず18万円/年・クラブ。社会保険がつけられない等処遇の改善につながっていない。
- ◆ 相模原市…処遇改善費が市営の指導員にも出されるようになり、時給が100円アップした。しかし、民営ではそれ以上時給を上げていても市営に合わせ、上限100円/時と言われている。クラブの持ち出しとなり運営が厳しい。
- ◆ 三浦市…以前報告した県指定の土砂災害警戒区域にある学童保育は、市の協力を得てなんとか移転に向け進んでいる。



総会さまざま

4月～5月にかけて、神奈川県内の各地域連協の総会が行われました。（南足柄市連協総会は3月）
 県連協では役員を派遣し、出来る限り参加してきました。

昨今では、来賓として市長や議員が参加する連協総会が増えました。議員も市町村議員、県議会議員のほかに国会議員が顔を出すことも。地域の状況を伝える絶好の機会となっています。

それぞれの連絡協議会の、総会そのものの工夫、活動の工夫をととても感じる事が出来ます。会員にどう伝え、また加盟をどう広げるかがそれぞれ課題となっています。そして、地域の学童保育をより良くしていくよう、行政や議員への働きかけ、取り組みを進めることが大切なのだと改めて確認をすることが出来ました。県連協の総会は6月24日（日）に開催されます。ともに課題を考え、前に進めていくための時間としたいと考えています。

1面にあります、「学童保育（放課後児童健全育成事業）の「従うべき基準」を堅持することを求める請願」に県連協として取り組み、6月4日現在で9千筆以上の署名を全国連協に届けることが出来ました。ご協力いただきました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。4月は2018年4月号から、平塚市の内海さんからのおすすめです。

渡辺恵津子先生の「肩の力を抜いて“はじめのいっぽ”！」を市連協の会議で読み合わせました。

「心を丸ごと抱きしめる」「気負わずに、働くこと、子育てすること、つながること」で指導員にも、保護者にも肩の力を抜いていいんだよと言われていてとても良いと思いました。

また、講座が新しくスタートしましたが、4月号では全体的な内容でしたがこれから具体的なテーマについてお話くださるとあるので、これからが楽しみです。

そして5月には、大和市の大矢さんからおすすめをいただきました。

大矢さんのおすすめは、5月号P.10「遊びで子どもの何が育つのだろうか」鈴木隆司先生の文章で、特にP.14の「段取り力」。ゴタゴタが起こった時に「段取り力」が身につく。と書かれていて、まさに指導員に日々の保育を言い表してもらっていると感じました。子どもは子どもの中で育つ。

ぜひ保護者にも紹介したいと思っています。とのこと。

内海さん、大矢さん、ありがとうございます。

皆さんの地域でも話題にしてみてくださいね。

2018年5月号～6月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2018年5月号>

- ★ 子どものひろば 横須賀市久里浜学童クラブ わかなちゃん
 逗子市波の子学童クラブ はるちゃん
- ☆ 読者のひろば 逗子市保護者OB 小関富美江さん

<2018年6月号>

- ☆ 特集「仲間と共にさまざまな経験を」
 横須賀市栗田・ハイランド保護者 桜井紋さん



今日のつながりを明日の力に！そして今秋は神奈川で♡

～ 参加者を笑顔で迎えるために… ～

「53回全国研 in 神奈川」実行委員会事務局長 上崎輝夫

全国研究集会 in 神奈川の足音が近づいてきました。一年前に実行委員会を立ち上げた時には「まだまだ先の話で実感が伴わないなあ」と思いながら会議を重ねていたのですが、あっという間に時間が流れ過ぎていったような気がします。

そんな中、6月3日（日）に開港記念会館にて第4回の拡大実行委員会を開催いたしました。県下10の地域連協から実行委員として総勢55名が参加し、討議を重ねました。全国連協からは佐藤愛子事務局次長にも参加いただき、今、神奈川で全国研が開催される意義など、開催に向けてのより具体的な話がありました。

会議の内容としては、前回までにある程度割り振られていた役割分担も、更に責任者の名前を具体的に挙げて実作業に入る段取りも決められました。

また、子どもたちの歓迎行事の演目や保育、参加証(お土産)づくりなど、午前中から各地域の指導員さんが集合して役割分担を進め、イメージの共有も深まったようで、どんな演目が完成されて行くのか、これからは楽しみな展開です。

しかし、全体会の準備もさることながら、交流会の準備や分科会の会場設営作業の具体化や分担、必要備品のリストアップ…等々これから本格的な作業になってきます。

全国連協ではリーフレットの制作作業も完了し、今月半ば以降には全国各地に配布が開始されます。いよいよ本格的に走り出した全国研究集会 in 神奈川。みんなの力を集めて成功させましょう。全国から集まる参加者の皆さんを笑顔で迎えますように…。

拡大実行委員会で殿村実行委員長作詞作曲の「Gackdow Houwick ～学童保育～」が披露されました。全国の皆さんと歌うことを楽しみにしています。



物品販売

2018年度も…!

天然の味【元祖笹川流れ】の昆布塩

日本海の清海水に北海道産昆布を入れ、特許製法で沸騰させない釜で仕上げた塩です。おにぎり、浅漬け、てんぷらやお刺身の付塩などに最適です。

他で買うより半額以下の値段になっています。

販売価格…350円/個（200g入り）
3個 1,000円

小豆島の高級手延素麺

暑くなってきました。そろそろ、さっぱりと食べられる素麺の出番です。流しそうめんも良いですね(^_^)

時間がたっても伸びにくい小豆島の手延素麺は、流しそうめんにもピッタリです！

販売価格…1500円/箱（50g×30束入り）
1箱（14箱入り）でお申込みいただいた場合は、製麺所から直送されます。（送料無料）

【編集後記】

TVのニュース解説番組を見ていたら、保育園を経営する株式会社の代表がコメンテーターとして出席し、保育の規制を発言していた。

何のための規制なのかについては触れず、保育園の不足があたかも「岩盤規制」にあるかのよう。

「株式会社」が利益を追求することには触れずじまい。こんなことが垂れ流しでいいのかな？

活動報告(4月～5月の主な活動報告)

4月14日～15日	4月全国運営委員会	5月12日～13日	全国合宿研究会(箱根)
4月19日(木)	53全国研 in 神奈川実行委員会	5月17日(木)	53全国研 in 神奈川実行委員会
2月25日(日)	53全国研 in 神奈川拡大実行委員会	5月21日(月)	県次世代育成課との懇談
*4～5月 各地域連協総会に伺いました。		5月30日(水)	第51回指導員交流会

♪ 地域連協だより ♪

大和市連協だより

大和市連協は5月27日に定期総会を開催し、今年度の体制、活動方針、予算が無事に承認され、また1年活動を行うことが決定しました。今回は第40回の節目となる総会でした。大和市の学童は、かつて施設の立ち退き、老朽化などから存続が危ぶまれるクラブがあり、施設問題を前面に出し対市交渉を行う中で、'85年から公営の児童クラブがスタートしました。少しずつ父母会運営から公営クラブへ移行が進み、市連協加盟クラブが徐々に減少しました。そして、加盟クラブ数が2クラブとなってから10年目を迎えます。何度か市連協活動休止を検討しましたが、その都度継続を選択し、しぶとく活動をしています。

この10年間、状況は大きく変化しました。'07年に放課後児童クラブ事業条例施行。'14年に子ども・子育て支援新制度に対応する為、条例改正。対象児童が6年生まで拡大したのに伴い、市内約1000人の利用児童数が約1500人に増大。市は委託民営の市連協加盟2クラブの他に、公営または委託民営クラブに希望して入所できなかった児童を受け入れた場合に補助金を出すこととし、新たに5か所の民営クラブが補助金を受けています。その結果、現在待機児童は出ていません。

市連協としては、委託民営2クラブがまずは存続する為の委託条件を市と意見交換会の中で調整し、さらに公営、民営問わず保育の質に関する議論を継続して行ってきました。その結果、'15年度末から市独自の支援員研修が開始されたのと、'18年度より公営クラブ支援員の処遇が少し改善されました。

少しずつ改善はされていますが、市の北部での児童数増大、公営クラブの保育の改善や保護者とのかわり、補助民営クラブと委託民営クラブとの条件の差異など、ハード面、ソフト面共に課題が多くあります。

今年度は13年ぶりに全国研の開催地が神奈川県となり、実行委員長は大和から出ます。これを契機にさらに、しぶとく活動をして行こうと考えています。



次号の「地域連協だより」は海老名市連協が担当です。お楽しみに！

<これからの主な予定>

- 6月17日(日) 第43回全国指導員学校・南関東会場(千葉県船橋市)
 - 6月24日(日) 神奈川県学童保育連絡協議会第43回定期総会(横浜市従会館)
 - 9月9日(日)AM 53全国研実行委員会総会②(横浜市西公会堂会議室)
 - 9月9日(日)PM 県連協拡大運営委員会(横浜市西公会堂会議室)
 - 10月20日(土)～21日(日) 第53回全国学童保育研究集会 in 神奈川
- *その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会を第3金曜日、全国研実行委員会を第3木曜日開催。